

館報

はた



令和3年9月1日現在

世帯数	6,266戸
人口	15,487人
男	7,493人
女	7,994人

1区 パワースポット



1区には、パワースポットがある...と言くと、はてな?と思う方がほとんどではないか。私自身も「そんな場所あるの?」と思ってしまうが、強引に結びつけようと思えば結びつけられなくもない。

扇田と呼ばれる水田地帯から集落へ戻る道は2本あるが、人が通れる程の道となる、さらに2本の道路があり、計4本となる。その1本1本の道沿いにパワースポットと呼ばれそうなものがあるのは、偶然ではなさそうである。以下は、私の子ども頃の頃の不確かな記憶を頼りに綴ったものであり、歴史的検証をまったく行っていないことを了承いただいた上でお読みいただければ幸いです。



写真①

写真①を
ご覧いた

きたい。この場所は通称「かしわや」の坂を上った和田堰の橋のたもとにあり、「ほこら」である。

この場所は、1区集落の東の入口にあたり、何ともミステリアスである。写真を撮るために近づくと「頭」という文字が見てとれた。「馬頭観音」という事か。私的には厄除けの祠であってほしいのだが、どうもそうではないらしい。

その事からすると写真②の方が厄除けのお社という事であればそれに近く、説得力がありそうである。



写真②

ただ、私はこのお社のなものについては情報を持ち合わせていない。しかし、この道を真っすぐに進むと三溝駅に出るが、その途中に以前も一つお社のものがあったた

め、何かお祭りのものが見られていたのではないかと推測される。



写真③

が巻き付けられていた。病気が治ると、わらで10cm程の輪を作り、このくるみの木の根元に置いてきた記憶がある。このくるみの木は疫病退散の御神木だったのかもしれない。



写真④

写真④は観音様の姿もはっきりとわかり、祠も新しい。まさに現役そのものと感ずるものである。集落の西の入口に位置し、今も風祭等のお札を納めている。まさに疫病退散、除災招福の観音様である。

1区集落も大きく発展してきた。しかし、昔の人が頼ったこのような不思議な力に我々は守られているのかもしれないことを改めて思い巡らすことができた。

27区 清掃イベント

清掃活動については各地区で工夫し、様々な活動をされていることと思います。

27区では、回数的には少ないですが、年に2度ほど行っており、その際、主に住民の手軽な交流の場として、防災訓練も兼ねた炊き出しなども実施していました。

今年度も7月18日、1回目の清掃イベントを実施しました。



晴天にも恵まれた清掃活動

昨年来のコロナの影響で、内容を大きく変え、皆が一斉に集まることを避け、各自宅から家庭ごみの袋を持って回収場所までの間、道端のごみを拾い集めてきていただく、その場所に参加の記念として、ごみ袋と飲み物、ティッシュなどをお渡しする方法をとりました。この方法で多くの密を避けることができた

思います。また、新しく住民となられた方もこの様子を見て、町会に加入したいと申し出てくれた方もいらっしゃいました。もちろん目的の交流の場として、ごみを拾いながらすれ違う人同士で挨拶をされていた方もいましたが、「あつ、この方は同じ地区にお住まいなんだね」等、通りすがりに思われた方もいらしたようです。このように27区という新興住宅地ならではの出会いも多くあったと思います。

記念品の効果でしょうか、参加された皆さんは笑顔にあふれるイベントとなりました。

また今回は、公民館活動を住民で築き上げるスタートラインとして、グループLINEを活用して情報交換やアイデア募集をしようと貼り紙をしました。ご興味を示してくださる方は多くいましたが、告知をしていなかった為、この日スマホを持っていないなどであり進展はありませんでしたが、まずは第一歩を踏み出す事ができました。

住んでよかったと思えるような地区になるよう皆で力を合わせ、良い地区にしていきたいと考えています。



盆火とは、4区のお盆の行事で、稲わらを束ねて牛杵の形に縛った一種の松明を夕方に和田堰に流すものです。8月13日の迎え火、16日の送り火があります。私が参加していた小学生の頃は、盆火に付けて流す七夕飾りや藁をリアカーを引いて集め、盆火を作り流し終わった後は、分館に子供達だけで食べ物を持ち寄って集まり、お盆の夜を楽しんだことを憶えています。高校卒業後は県外にいたこともあり、自宅から和田堰には歩いて3分もかからないのに、何十年も盆火を見に行く機会がありませんでした。今回、館報の編集委員になつて記事をどうしようかと考え、地区の行事の盆火を取り上げることにしました。



昨年からの新型コロナの影響でほとんどの行事が制限を受けて中止となっております。例年であれば地区の子ども達が参加

していましたが、7月末時点では昨年が続いてコロナ感染を考慮し、参加は見送りに。ただし、盆火はお盆の伝統行事として続いてきたこともあり、昨年同様伝統行事保存会主体で規模縮小のうえ開催することになりました。

従来は、アカシアの枝を芯にした大盆火を数台と、小型の小盆火を数十台流しますが、小盆火のみ三十台程度を流すこととなっていました。13日は前線の影響で雨となり、土砂災害の警戒レベル3で、夕方には松本市からの緊急放送もありました。午後7時より流し始めることでしたので、様子を見に行つてその場にいた保存会の方に話を伺つたところ、何と12日に急遽中止が決まったとのこと。この数日でコロナの感染者が急増し、松本圏域の感染警戒レベルが5となり、流した盆火を引き上げるための消防団の出動要請もできないとのことでした。例年であれば夕方、子ども達の「盆火、やーい」の掛け声とともに、盆火が流れて行くのを見られることを期待していましたが、まさか中止になるとは思いませんでした。

来年は、コロナが収まって例年のように開催できることを期待します。本来であれば川に

流れる盆火の写真を掲載する予定でしたが、保存会の方々が準備された盆火を掲載します。

ふれあい健康教室 フレイル予防講座

7月29日、西部保健センターで行った「ふれあい健康教室・フレイル予防の運動と脳トレ」に参加してきました。



このフレイル予防講座は、波田がモデル地区となつて5月に開催のフレイル健診、6月に開催の口腔ケアと栄養講座に続き、3回目の講座となり、ご年配の方々だけでなく、若い皆さんも参加されていました。

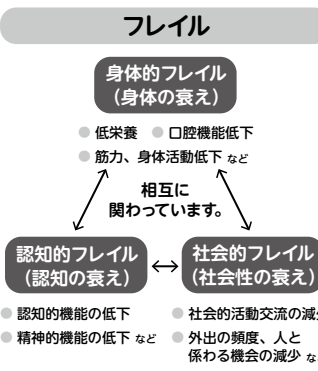
全員で「大いなる波田」の曲に乗せてストレッチをすることから始まりました。

松本市立病院のリハビリテーション科の先生によるスクリーンでのフレイルに関する説明を聞き、その予防策について学びました。「フレイル」は、健康と要介護の中間の状態。加齢と共に心身の機能が低下している状態（虚弱）をいいます。今回の講座では自分の状態を知り、健康的な生活をしていくための体操を教わりました。

「グーパー体操」、両手で違う動きをする「ぼつさん体操」、「デュアルタスクトレーニング（足踏み運動+3の倍数で手を叩く運動）」等々。

参加された皆さんの中には、毎日ウォーキングや筋トレをしていくという方もいて、とても動きがよかったです。両手を使う運動は、左右の手を同時に違う動きをさせるので、とても難しくて頭を使います。少しでもできるようにになると嬉しさ感UP。「星野源」や「嵐」の曲に合わせての脳トレは、難しくても音楽にのついていっていきたくなくて楽しいから不思議。心も明るく動くからなのでしょう。

あつという間の2時間。皆さん満足した笑顔のように見えました。コロナ禍の今、交流があつてこうしてみんなが楽しく過ごせる…あたり前でないだけに、感謝の時間を過ごさせていただきま



小学生の時、授業で鉄工所の見学に行つた。ウイスキー



のCMで野坂昭如が、「金の延べ棒虫干しにする」と歌っていたのが面白くて、一列で歩きながらも、友達と笑いながら真似して歌った。多分、一年生か二年生だった。将来、野球選手になりたかった私は、見学場所に興味がなかった。遠足感覚で外出できて、たうれしかなかった。見学の道すがら、鉄の部品を拾い、宝物だと友達と盛り上がった。でも、四十数年前の出来事を、実は良く覚えていない。見学したこと自体忘れていた。なぜ、埃の被つた昔を思い出したのか。旧宮地鉄工所の跡地が広大だったからだ。信号待ちで停車し、ふと傍らを見た。大きな建物が埋めていたその場所は、基礎にその痕跡を残すのみだ。ランドマークが消えた。そうか、鉄工所は、あつて当たり前存在だった。半世紀生きてきて、今、気づいた。子供の頃に見学して以来、私の人生と交わることが一切なかったのに。喪失感を禁じ得なかった。子供の頃には、全く想像できなかった現在。比較しても意味はない。でも。